

塘研究室現地調査報告

5月18日、長瀬川・酸川の底生動物相調査を横山君、大友さん、塘の三人で実施しました。調査地点は上流側から長瀬川若宮付近、観音寺側流入上、猪苗代大橋上、長瀬川河口の4ヶ所です。観音寺側流入上は3月に調査を実施した場所、それ以外の3ヶ所は4月の調査実施場所です。

長瀬川若宮付近は相当水量が増えており、川岸付近のコカナダモが繁茂する水溜まりは消滅していました。長瀬川本川からはトウヨウマダラカゲロウ属、ヘビトンボ、ムナグロナガレトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ属などが見られましたが、大型カワゲラ類は羽化したようで、河川内に幼虫はおらず、河川周辺に成虫が見られました。猪苗代大橋上ではコオノオナシカワゲラが多く、レゼイナガレトビケラは蛹が見られました。観音寺川流入付近ではコオノオナシカワゲラ、レゼイナガレトビケラの他、クロスジヘビトンボ、ミドリカワゲラ科、モンカゲロウなどが見られました。河口付近ではオオミズスマシ、ミズスマシ、キベリヒラタガムシの他、フタオカゲロウ属が見られました。ミズスマシはかなりの個体数が生息しており、本種は県内でも分布が限定的なので、貴重な生息地と言えると思います。



ヘビトンボ幼虫(長瀬川若宮付近)



コオノオナシカワゲラ成虫(猪苗代大橋上)



モンカゲロウ幼虫(観音寺川流入上)



クロスジヘビトンボ(観音寺川流入上)



オオミズスマシ(長瀬川河口付近)



ミズスマシ(長瀬川河口付近)